



今後の支援活動について

当団体は、2013年から川内村の郡山市にあった仮設住宅時代から村民の皆さんと活動を一緒にさせていただいておりました。帰村後も村民の皆さんと多くの人々のつながりをつくるために、川内村の関係組織と連携して、引き続き、村内で活動しながら、川内村の人々が暮らしやすい環境づくりに寄与できればと考えています。詳しい活動は当団体のホームページまたはFacebookページで随時発信いたします。

NPO法人コースターについて

団体理念

福島県で、創造的で持続的に自己変革していくことができる地域社会の実現を目指して、社会的課題の解決に取り組む人材の育成及びその促進のための社会的基盤整備を行うことを活動の目的としています。

主な事業内容

■事業づくり支援・復興支援活動

若者が地域に入り、住民と一緒に課題解決や地域おこし、復興活動に取り組む活動のコーディネートをしています。その他、NPO法人や地域団体の設立補助や資金調達、事務局整備などの事業を展開しています。

■コミュニティスペース「福島コトひらく」の運営

築40年以上の倉庫を改修して、交流サロン、コワーキングスペース、貸会議室、貸事務所を兼ねた複合型のコミュニティスペース「福島コトひらく」を運営しており、様々なジャンルの団体の活動拠点やネットワーキングの場所として活動しています。

■各種イベント、人材育成に関する研修

市民活動に関する勉強会その他、NPO職員向けの人材講座やワークショップを実施しています。そのほか、大学生と企業をつなげるインターンシップの仲介や高校向けに地域とつながるワークショップなどを開催しています。



〒963-8071 福島県郡山市富久山町久保田字下河原191-1
TEL/024-983-1157 FAX/024-983-1158

ウェブサイト <http://costar-npo.org> メール info@costar-npo.org Facebook <https://www.facebook.com/npcostar/>

本冊子は福島県 令和2年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業を活用して作成しています。

【企画】NPO法人コースター 【編集】NPO法人コースター、我妻柘哉、田村茉奈 【デザイン・印刷】株式会社three tree create

ウェブサイトは
こちらから▶



高校生がふくしまの魅力の発信や
興味があることを形にする
サポートをするための探究の手引き

令和2年度

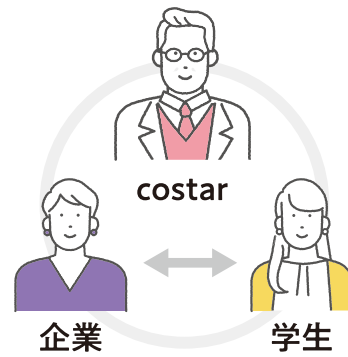
ふるさと・きずな維持・再生支援事業

事業報告書





事業の目的 コーディネーターが入る目的



1 生徒たちの活動をサポートするため、
コーディネーターが学生と企業を繋げる

2

福島の次世代を担う人材の育成、
地域・社会企業を自分事としてとらえて
行動できる若者を増やす



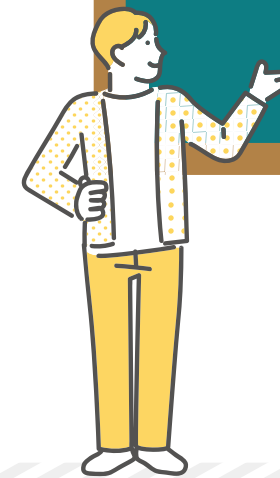
3

高校と連携してワークショップ形式で
課題のタネとなる自分の興味・関心ごとをテーマに
仮説検証・調査・解決アクション・仮説検証といった
一連の流れをサポートします。



事業の流れ

- STEP 1 自分の 考えを出す練習をする
- STEP 2 自分の 志のタネを探すための方法を学ぶ
- STEP 3 自分の 志のタネとなるキーワードを見つける
- STEP 4 身近な事例で 実際にアイデアを出してみる
- STEP 5 地域で実際に活動している先輩の話聞くことで アクションすることのイメージをつける
- STEP 6 自分が探究したい テーマの決め、計画を立てる
- STEP 7 実際にアクションを行う



STEP 1

自分の考えを出す練習をする

決められたテーマに沿って、ブレインストーミングやゲーム形式のワークで質問し合い、グループで自分なりのロジックやアイデアを出します。授業中、なかなか発言できない生徒でも、気安く発言できるように解のない質問や、自分の考えを必要とするテーマを設け、自分の考えを出す楽しさを体感してもらい、抵抗感をなくしてもらおうことがねらいです。



STEP 2

自分の志のタネを探すための方法を学ぶ



統計データや論文の探し方を学び、変化したことや自分なりに気づいたことを出して、他の生徒と共有します。また、同じ統計データを使って、データの分析の仕方、解決の仕方を学びます。同じ資料でも生徒それぞれ注目するポイントが違うため、楽しみながら共有すると同時に、自分の得意分野を見つけ、志のタネとなるものの範囲を少しずつ狭めていきます。



STEP 3

自分のタネとなるキーワードを見つける

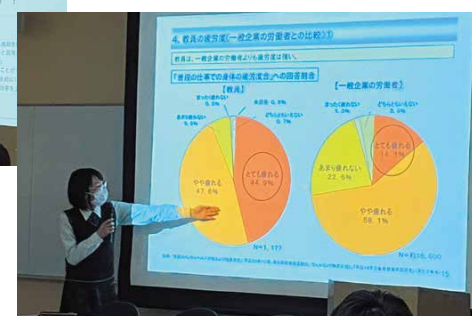
自分の興味・関心があることについて調査を行い、そこで自分が思う課題を見つけます。また、自分自身について見つめなおし、ステップ2で身に付けた志のタネを探すための方法を活用し、テーマをさらに深めていきます。自分が今どんなことに興味を持っているのか、好きなことは何かを探っていきます。今回は、2週間分の新聞記事の中から興味のある記事を10~20個ピックアップして共通しているもの同士を集めてキャッチフレーズを考えるワークを行いました。その他、自分が気になるフレーズから連想される言葉を紡ぎ出すマンダラートのワークも行いました。



STEP 4

身近な事例で実際にアイデアを出してみる

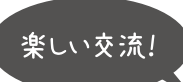
ステップ2、3はインプットが主でしたが、ここでアウトプットして情報を整理します。テーマを元に自分でアイデアを出したら、他の人と共有して意見を出し合います。自分たちの身近な事例をテーマに課題を解決するアイデアを考えます。今回は「校長先生になったら学校をどう改革しますか」というテーマで行いました。



STEP 5

地域で実際に活動している先輩の話聞くことでアクションするためのイメージをつける

自分がテーマにしようと考えているジャンル、将来的に進みたい方向性に沿ったジャンルで活動している経営者や専門家といった人生の先輩方の話を聞きます。先輩方がどのように活動しているのか、なぜその活動をしたのか、様々な話を聞き、これからの探求活動のイメージをつけます。各先輩の話聞くために少人数制で対話形式でじっくり話せるような場づくりを心がけます。学校に通っているだけではなかなか聞けない先輩たちの活動を聞いて、生徒達の笑い声や質問する姿が見受けられ、とても楽しい交流の場になっています。



STEP
6

自分が探究したいテーマを決め、計画を立てる

自分の好きなことや気になっていることや進みたい方向に合わせたテーマを決めます。一人ではなかなかテーマが決まらない生徒は、他の生徒と一緒に、テーマを決めます。テーマが決まったらまずは何をするのかどういったアクションをするのかの計画を立てます。生徒の中には進路を取るか自分の趣味を取るかで悩む生徒もいます。そういった時は先生方やコーディネーターがアドバイスをし、生徒の納得のいくテーマに導きます。



STEP
7

実際にアクションを行う

テーマが決まったらテーマで定めた目標の達成に向けて実際に活動していきます。「災害医療について」「ドレス制作」「子どもの野菜嫌いを減らす」などといったテーマがあります。企業や団体にアポを取り、訪問するところまで全て自分で行きます。企業と連携して、イベントの実施、アンケート調査や実験、フィールドワークといったネット調査だけで終わらないようにアドバイスを受けながら活動していきます。途中で息詰まったらテーマを変えたり、範囲を小さくしたりして、半年~1年間活動していきます。この活動は主体性が問われるので、授業では身に付かない部分で成長することができます。

主体性が成長できました!



生徒のアクションの例と実際の生徒の声

生徒の探究したテーマ	生徒のアクション
中学校給食のフードロス減らす	●配膳の実験 ●ポスター作成・配布
国際理解	●ALTの先生にインタビュー ●記事作成
動物のさつ処分を減らす	●ボランティア参加 ●企業・団体へインタビュー
障害者でも音楽が楽しめる社会	●企業にインタビュー ●イベント開催
子どもの発達障害について	●学校や団体にインタビュー ●子どもとの交流
色覚障がいの人を助けたい	●当事者へのインタビュー
街づくり	●街歩きやイベント開催
ダンスや芸術を使った探究	●イベント参加 ●動画作成
マーケティング	●飲食店に行き、商品開発を行う
化粧品について	●似合うメイク方法を見つける
高齢者のスポーツ	●企業・団体にインタビュー ●ボランティア参加
地元の食べ物を広める	●フェスへの参加 ●料理教室開催

自分は食べるのが好きなので、食に関する活動ができてうれしい。大変なことは全くなく、楽しいことばかりだった

自分も東京に憧れていましたが、福島をまだまだ知らないと思いました。福島の企業についてもっと知りたいと思った

探究のおかげでこれからやりたいことや夢がはっきりしました。夢に向かって頑張ります!

イベントは失敗したけれど、そこからこれからの課題が分かったので解決に向けて活動を進めていきたい

探究を通して自分と同じ病気を持っている方と交流ができて良かった。

